

公共交通課題の実態に関する調査結果

2024年3月11日

1. 調査の目的

移動
難民

どの程度いるのか

どんな属性なのか

可視化

必要な対策を
考える土台に

既存交通手段では
移動ができず
課題を抱えている人たち

2. 調査概要

調査内容	全国自治体における公共交通課題の実態把握
対象	人口5万人以上の自治体（特別区は除く）にお住まいの方
地域の区分	小規模都市（人口5万人以上20万人未満） 393自治体 中核都市（人口20万人以上100万人未満） 98自治体 政令指定都市（人口100万人以上） 11自治体
有効回答数	25,648件
調査期間	2024年2月22日～2月26日
調査方法	インターネットによるモニターアンケート調査
調査会社	クロス・マーケティング株式会社
調査主体	モビリティプラットフォーム事業者協議会

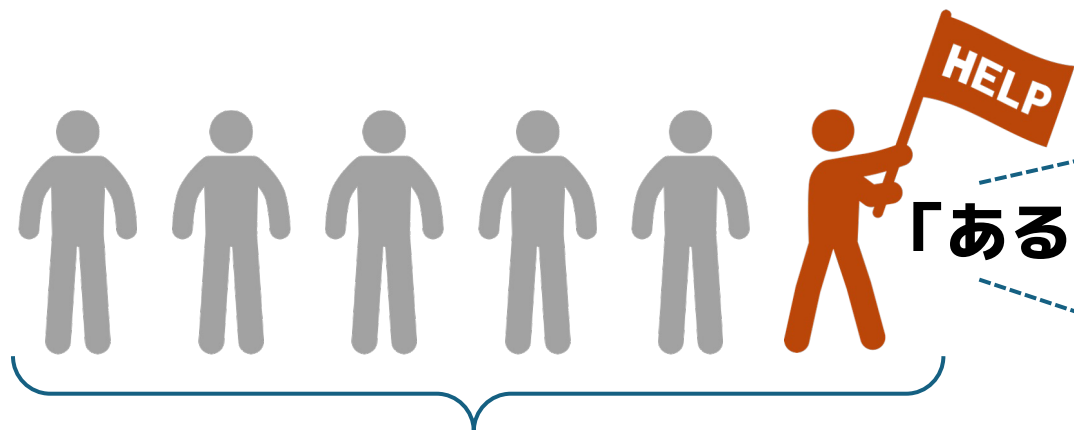
3. 移動難民経験

過去1ヶ月以内に、適当な交通手段がなく移動に困った経験がある人は**全体で6人に1人**が該当し、メジャーな課題であると言える。

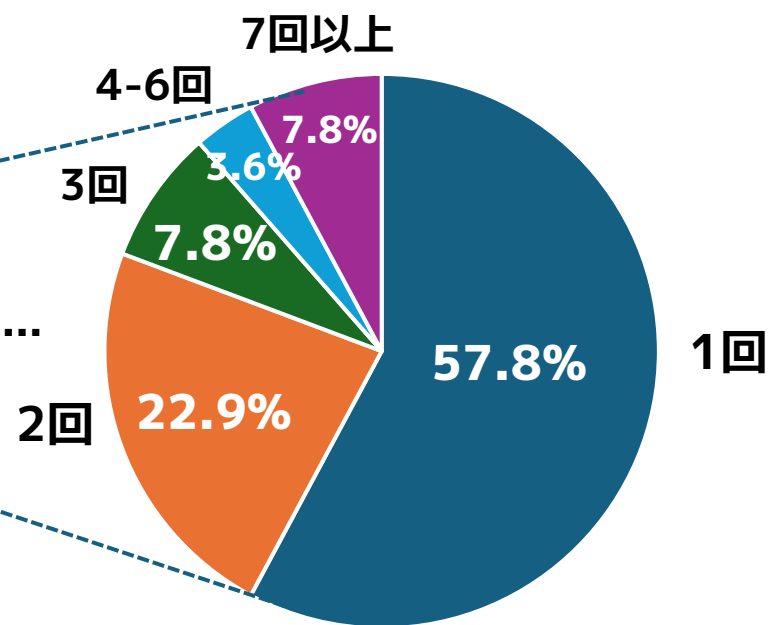
Q) お住まいの地域で移動したいときに適当な交通手段がなく、もしくは不便なことで、移動に困った経験がありますか。一か月あたりに経験した回数の平均をお答えください。

1か月以内に移動に困った経験がある

1か月で何回移動に困ったか



6人に1人



4. 移動難民の地理的分布

移動に困った経験がある人は、都市の規模に関わらず存在しており、過疎地や大都市だけの問題ではないことが伺え、全地域的な対応が求められることがわかる。

移動難民経験のひと月当たり頻度に関する回答分布（都市規模別）

都市規模

5~20万人

20~100万人

100万人以上

“1か月以内”に
移動難民を
経験した比率

16.7%

16.4%

17.4%

都市規模問わず
同程度に
移動難民が存在

(※移動難民経験とは、15分以上の待ち時間が発生した経験、著しく時間のかかるルートや遠回りのルートにせざるをえなかった経験、もしくは移動できなかった経験などをいう)

5. 移動難民になりやすいパターン

移動に困りやすいのは、

「最寄駅までの距離が遠い」

「タクシーの利用回数が多い」

「若年層と、80歳以上の高齢者に多い」

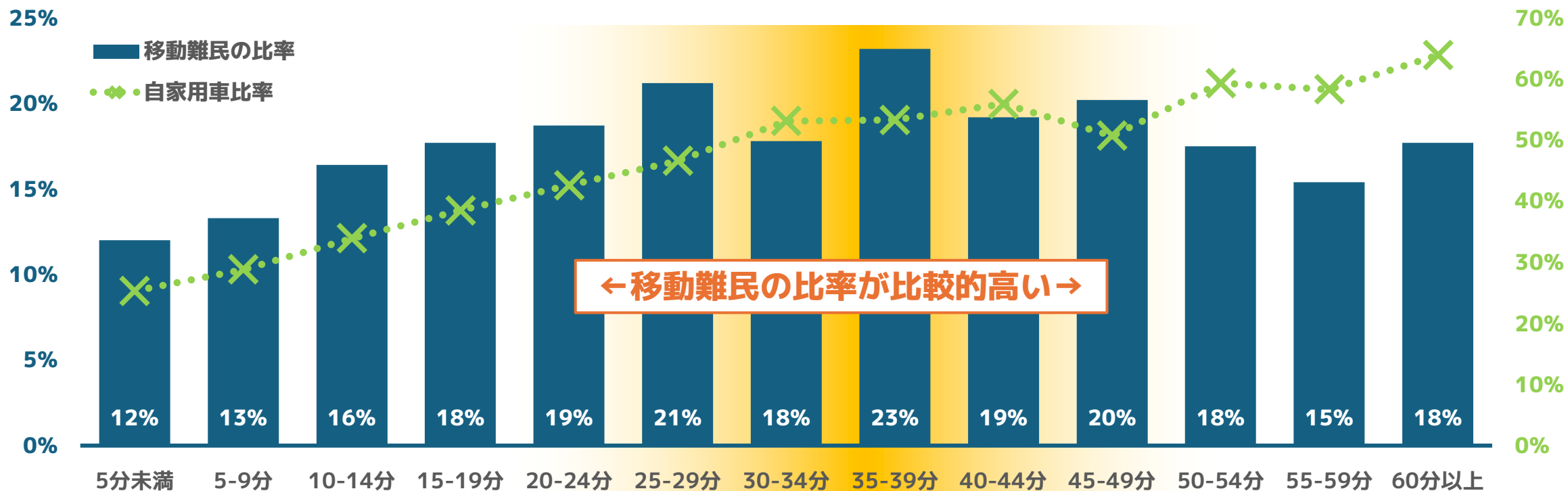
ことがわかり、生活に自動車が必要な場所に住んでいるものの、
個人の自動車は保有していない/自分では運転しない層であることが伺える。

5-1. 最寄駅までの距離と移動難民経験

最寄駅まで遠くなると移動難民の比率も上昇する。35-39分をピークにそれ以上は移動難民比率が減少するのは、遠くなるにつれ自家用車の利用率が高くなる結果と連動しているためと考える。

Q) あなたの最寄りの鉄道駅までのおおむねの徒歩での所要時間をお知らせください。

最寄り駅までの距離別移動難民の比率



5-2. タクシーの利用回数と移動難民経験

タクシーの利用回数が多いほど、移動難民の経験が多いという結果が出た。特に代替となる交通手段がない利用者層にとっては、タクシーの供給不足が進むにつれ、一層深刻な問題になり得る。

Q) 月の平均的なタクシーの利用頻度はどのぐらいですか？



Q) お住まいの地域で移動したいときに適当な交通手段がなく、もしくは不便なことで、移動に困った経験がありますか。一か月あたりに経験した回数の平均をお答えください。

3.5

タクシー利用頻度別の1か月のうち移動に困った経験の回数

3.0

2.5

2.0

1.5

1.0

0.5

0.0

横軸：月のタクシーの利用頻度

縦軸：1か月のうち移動に困った経験の回数（平均）

0.25

0回

0.77

1回

1.10

2回

1.54

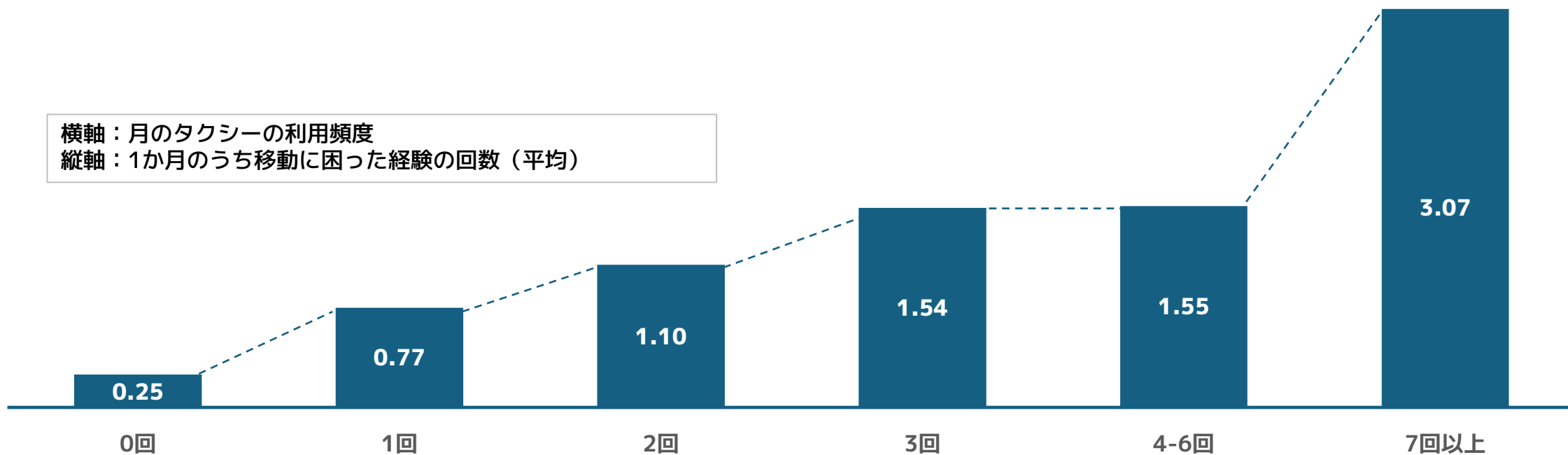
3回

1.55

4-6回

3.07

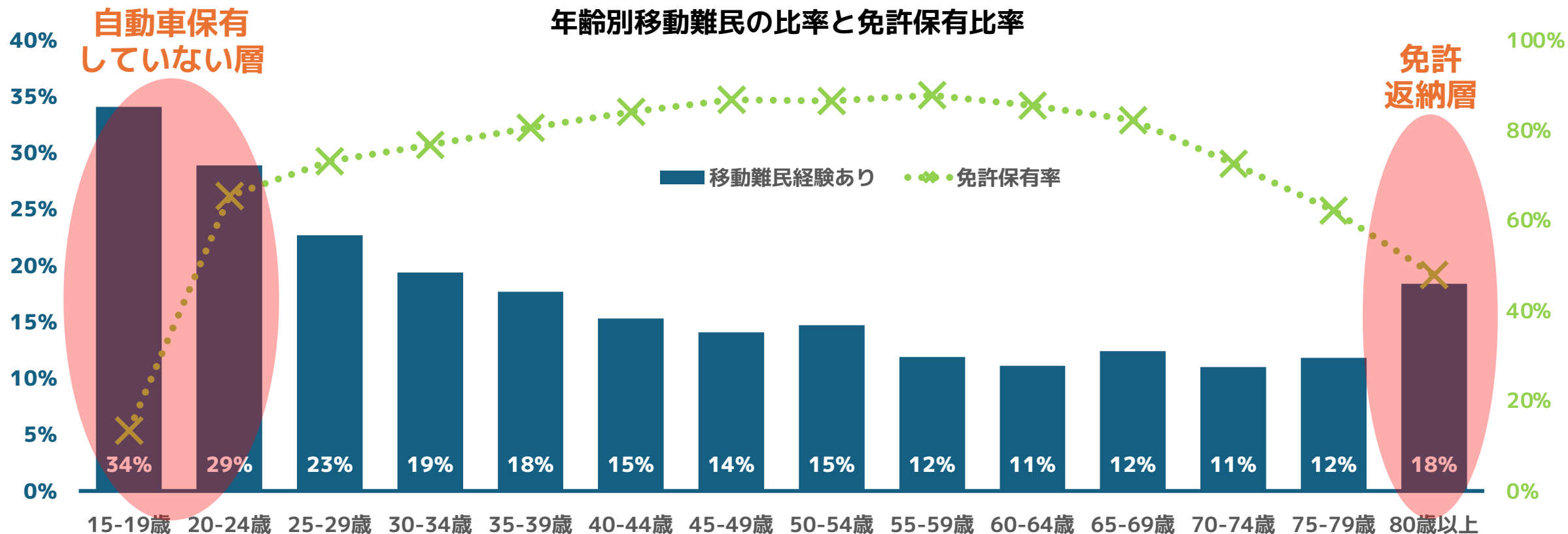
7回以上



5-3. 年齢と移動難民経験

若年層と、80歳以上の高齢者に移動難民が多い。生活に自動車が必要な場所に住んでいるものの、個人の自動車は保有していない/自分では運転しない層であることが伺える。

Q) あなたの年齢をお知らせください。



6. 移動問題の波及効果

適切な交通手段がなく移動に困ることで、

1.生活・地域経済への影響

2.高齢者の健康への影響

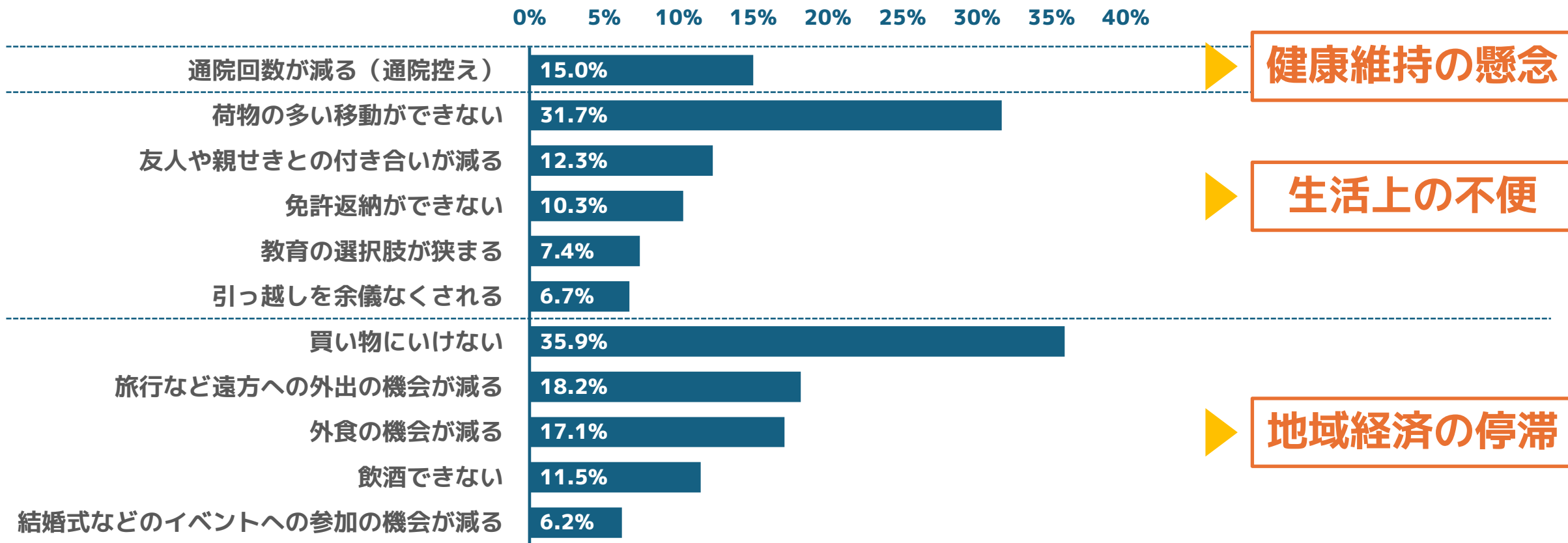
3.若年層の人口流出

等の問題が引き起こされている可能性がある。

6-1. 生活・地域経済への影響

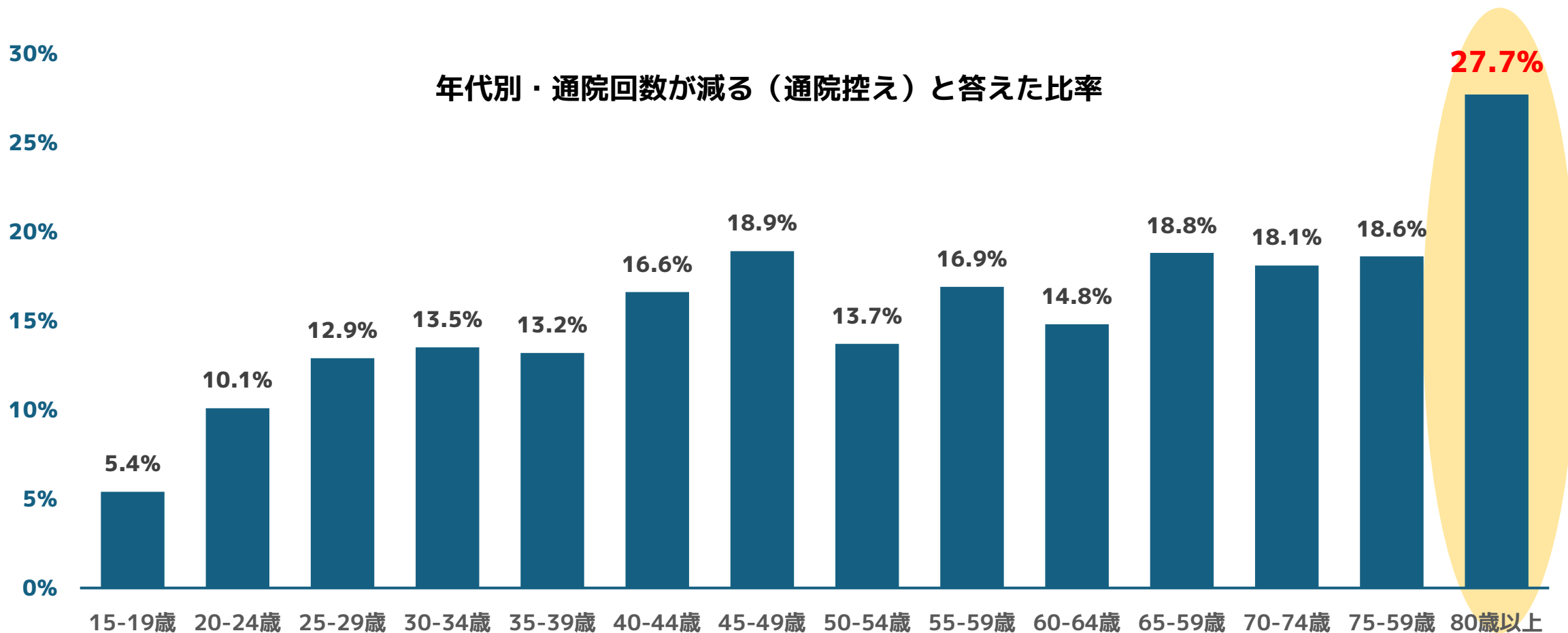
交通手段がないことで、買い物に行かれない、外食の機会が減る、飲酒ができないといった不便を感じる人は多く、生活上の不便があることに加え、地域経済の停滞につながる要因にもなりうる。

Q) 移動の足が確保できないことで日常生活でどんな問題が生じていますか？(複数回答可)



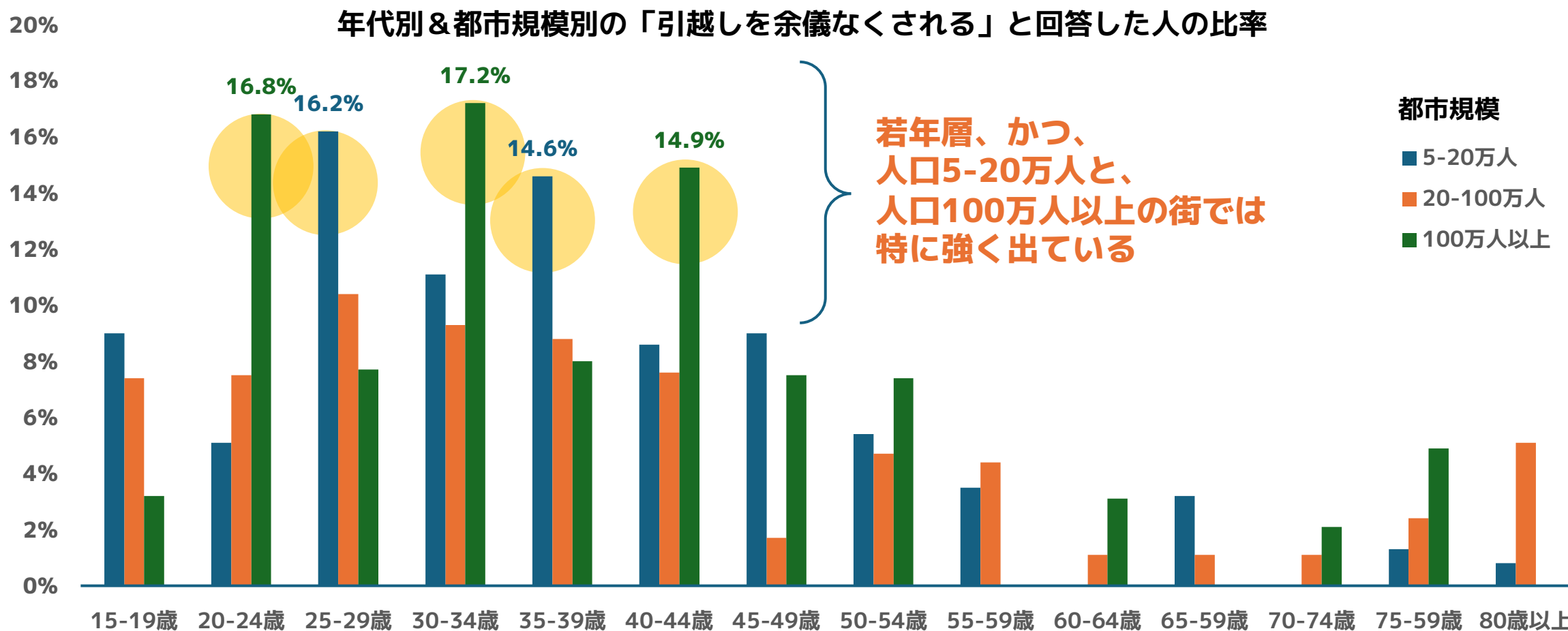
6-2. 健康への影響

特に80歳以上の高齢者は、移動手段がないことで通院を控えているという人が27.7%にのぼり、健康維持への影響が懸念される。



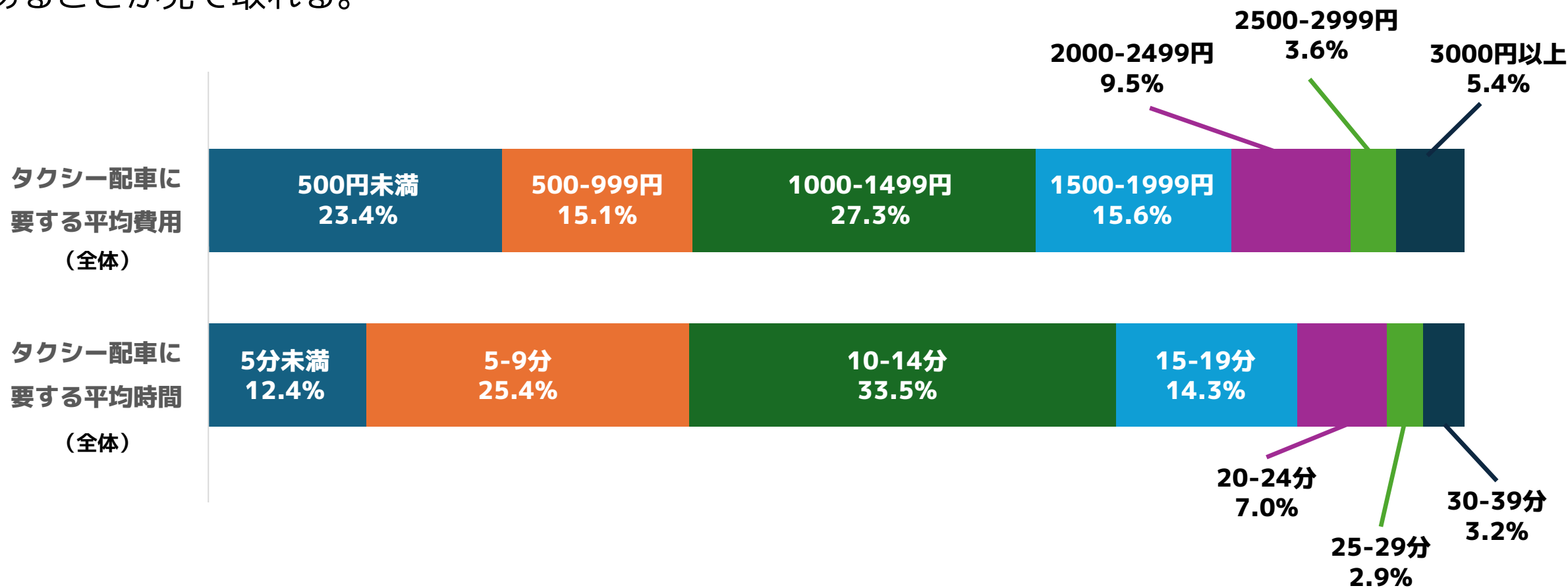
6-3. 若年層の人口流出

34歳以下の若年層では、交通手段がないことから「引越しを余儀なくされる」と回答している人が7.2~12.2%にのぼり、地域から若者が流出する原因になっていると考えられる。



7. 現状のタクシー配車の使い勝手

タクシー利用については、配車までの所要時間は10～15分、配車料金は1000～1500円かかっているという回答が最も多い。タクシー不足状態で、待ち時間・配車料金ともに高く、不便な状態にあることが見て取れる。



APPENDIX

5-2. 参考：路線バスの減少について

NHK調べ

**2023年8月までの1年5か月の
廃止路線：8,667km（全国）**

廃止距離の地域比：

- ・北海道：7%
- ・東北：8%
- ・関東：36%
- ・北陸信越：7%
- ・中部：4%
- ・近畿：3%
- ・中国：2%
- ・四国：6%
- ・九州：27%
- ・沖縄：0%

廃止の要因：

- ・利用者不足：66%
- ・運転手不足：41%

乗合バス運転手の減少：

- ・2011年度：81,811人
- ・2021年度：74,340人

乗合バス運転手1人あたり負担増加：

- ・2011-2019年度：2.7人
- ・2020年度：2.6人
- ・2021年度：2.4人



**路線バスの減少による、
潜在的タクシー利用者の増加**